

国際交流基金助成事業報告書

薬学部 3年次生 K.U

1. はじめに

この度、国際交流基金の助成を受けて、2026年3月10日から18日の9日間グリフィス大学看護学部海外研修プログラムに参加しました。期間中は、グリフィス大学にて英語を学び、医療施設見学やホームステイなどを経験しました。



グリフィス大学

2. 渡航前に考えていた自分の目標

今回の目標は、自分から積極的に英語を話すことと、オーストラリアの薬学部や薬局が日本とどう違うのかを見学することでした。

3. その目標は渡航後どうだったか

一つ目の「自分から積極的に英語を話すこと」については、はっきりとした表現ができたとは言えませんが、自分が思っていたよりもコミュニケーションを取ることができたと感じています。

二つ目の「オーストラリアの薬学部や薬局が日本とどう違うのかを見学すること」については、まだ薬局実習に参加していない段階だったため、詳しい違いまでは分かりませんでした。明らかに異なる点や、オーストラリアの薬局の良さ、薬学部の学習環境の違いを見ることができました。

4. 医療施設見学

医療施設見学では、グリフィス大学の薬学部や大学病院の病室、薬局、栄養管理室などを見学しました。日本との違いとして、まず薬剤師については、オーストラリアでは薬剤師が自ら処方できることや、トレーニングを受けることで予防接種を行えることが挙げられます。また、薬剤師資格を失った人の情報が公開されている点も特徴的だと感じました。

薬局では、薬品棚がロボットによって管理されており、使用頻度の高い医薬品から順に一晩で並び替えられる仕組みになっていました。さらに薬学部では、デジタルヘルスツールを使った学習や、AIを活用した臨床に向けた勉強が行われていました。特に、薬局や薬学部ですでにロボットやAIが使われている点が印象に残りました。

今はAIやデジタルツールが当たり前のように使われる時代になっている中で、日本ではまだまだ導入されていないものがオーストラリアではすでに使われていることに、少し遅れを感じました。



デジタルツールを使った授業風景

5. 語学学習

今回はグリフィス大学に通い、語学研修に参加しました。これまで日本で受けてきた英語の授業は、日本人の英語が得意な先生やネイティブの先生と日本人のアシスタントの2人体制で行われるものが中心でしたが、今回はネイティブの先生1人による授業だったため、聞き取れなかったときはどうしようという不安がありました。

しかし、先生(右の写真の女性 Micaela 先生)の話すスピードはそれほど速くなく、ジェスチャーなども交えて分かりやすくコミュニケーションをとってくれたため、理解できない部分はあまりありませんでした。仮に分らないことがあっても、とても丁寧に、さらに分かりやすく説明してくれたので、特に困ることはありませんでした。

また、授業ではすぐろくや間違い探しなどを取り入れたペアワークが多く、楽しく学べる工夫がされていました。そのため、英語での会話を楽しみながら、簡単な医療英語から少し難しい単語まで幅広く学ぶことができました。



Micaela with me

6. 交流体験 (ホームステイなど)

私は旅行が好きで、海外に行くこと自体には慣れてはいると思っていましたが、今回は人生で初めての海外でのホームステイということもあり、非常に緊張していました。日本では高校時代に北海道で民泊を経験したことがありましたが、今回はホストファミリーが日本人ではないため、より一層不安を感じていました。

ホストは70代のおばあちゃんでしたが、年齢を感じさせないほど元気な方でした。初日に家へ向かう道中でもたくさん話しかけてくれたのですが、オーストラリア特有のなまりがあり、最初はなかなか聞き取ることができず、不安が大きくなっていました。

幸い、一緒に滞在していたのは私だけではなく、他大学から来ていた一学年下のしんいち君もいました。彼は私よりも滞在期間が長く、すでにホストマザーとの会話にも慣れていたので、家での過ごし方やルールについて色々教えてくれました。また、朝の寝起きで頭が回らないときにホストマザーの話が理解できなかった際も、内容を簡単な英語で分かりやすくまとめてくれるなど、とても頼りになる存在でした。

また、オーストラリアでは水不足という環境問題があり、生活用水に制限がある中で生活でしたが、その中でもある程度柔軟に対応してくれたホストマザーには感謝しています。

そして18日の最終日には、しんいち君はすでに家を出ていましたが、その頃にはホストマザーの英語も少しずつ聞き取れるようになっていました。完全に理解できるわけではないものの、分からない部分があっても自分の英語でなんとか伝えられるようになっていたことに気づき、今振り返るととても嬉しく感じています。



初日の晩御飯



ホストマザーJothi



食べかけのランチボックス

7. 渡航先について（気候、食べ物、生活環境など）

オーストラリアの気候は日本とは真逆で、3月は暑いと聞いていたのである程度は理解していたつもりでした。しかし、日本とは違って湿度があまり高くなく、ベタベタとした蒸し暑さがなかったため、日本の夏よりも過ごしやすく、心地よい印象を受けました。

また、朝ごはんは食パンやシリアルが中心で、小学生の頃に似たような食生活をしてきたことを思い出し、少し懐かしく感じました。昼は友達と一緒にランチボックスを食べましたが、周りの人たちもサンドイッチに加えてビスケットやスナック菓子、フルーツを持ってきていることが多く、日本とは違う食文化を感じました。

さらに、ホストマザーが朝に作ってくれたランチボックスには、時々初めて食べるフルーツが入っていることもあり、新しい味に出会える貴重な経験になりました。

8. これからの自分

私は将来、薬剤師として海外で働きたいと考えています。そのため、今回のオーストラリア研修で学んだ英語での表現方法や、現地の薬局、薬剤師の業務内容、そして充実した設備を実際に見学できたことは、とても貴重な経験となりました。これらの経験を

通して、自分の将来の目標に一步近づくことができたと感じています。

また、日本との違いを実際に自分の目で見て感じたことで、海外で働くためには語学力だけでなく、現地の医療制度や文化への理解も重要であると実感しました。

これからは大阪医科薬科大学で薬学の知識をしっかりと身につけるとともに、英語力の向上にも継続して取り組んでいきたいと考えています。具体的には、毎日必ず英語に触れる時間を作り、リスニングやスピーキングの力を高めていきたいです。今回の経験を今後の学習に活かし、将来の目標を実現できるよう努力していきたいと思います。



おまけ

グリフィス大学内にあるバーのビリヤードで遊んだ時の写真

日本で大学内に飲酒ができる施設のある大学は聞いたことが無かったので驚きました。

周辺の居酒屋よりもビールが安くて利用しやすかったです。